

～クラブ創設支援のための近畿ネットワークも強化～

クラブ創設・運営の問題解決の糸口を探る！

平成18年度第1回近畿ブロッククラブ育成推進協議会 報告

今年度の近畿ブロッククラブ育成推進協議会の進め方は、先進クラブの視察と情報交換会を柱に2日間の日程で開催しました。

自主的な参加を集う視察研修 大阪市たつみスポーツクラブ視察

開催日：7月1日(土) 参加者：16名



活動場所やクラブハウスなど現場視察の後、理事長の谷口正さんからクラブの設立から運営に至る苦労話、エピソード、これからのクラブビジョンなどについて説明がありました。

「たつみスポーツクラブ」も、現在の育成中のクラブとさほど変わらぬ準備段階をふんできたとのお話に親近感を覚え、今後のクラブ創設への大きな励みとなる貴重な視察でした。

また、クラブ創設・運営の原動力は、地域を思うボランティアの熱意あるアクションにほかならないことを痛感しました。
(委託事業経費対象外)

平成18年度第1回近畿ブロッククラブ育成推進協議会

開催日：7月2日(日) 参加者：51名 会場：大阪市天王寺区 たかつガーデン

近畿各府県の育成指定クラブ代表ら総勢51名が、クラブ創設に向けて、さまざまな情報を交換し、課題解決の糸口を探る一方、情報を共有化することによって、クラブ創設支援へ向けたネットワークの強化を図ることをねらいに開催しました。

開会式では、地方企画班の松田雅彦班長と日本体育協会の根本光憲課長が挨拶を行いました。松田班長は「昨今、ニュースで取り上げている青少年の凄惨な事件をみると、人との関係性や地域の絆を今こそ再生していかなければならない。私たちが目指す総合型地域スポーツクラブは地域づくり・人づくりにつながるものである」と挨拶されました。また、根本課長は「5月に岐阜県で開催した中地区クラブミーティングでは、1年目のクラブは事業の概要を理解いただき、2年目を迎えたクラブについては設立への具体的な取り組みをつめる段階として事例紹介させていただき、それなりに効果を得たようです。今回の近畿ブロックでは、身近なクラブとのネットワーク化を図ってください。」と挨拶されました。



テーマ別グループミーティング ～先進クラブの先輩(経験者)も加わる～

テーマ別グループミーティングは、参加育成指定クラブに事前に調査し、課題としてあげられた4つの

テーマを希望によって6グループに分かれ、行いました。

6つのグループには、既に自立したクラブ運営・活動をされている先進クラブの皆さん6名がそれぞれ加わり、オブザーバーとして、豊富な体験による実例など指導助言をいただきました。

地域環境や立地条件、進捗状況など様々でしたが、各グループともそれぞれが思い思いに発言し、多くのヒントを得るなど有意義な時間であったようです。(後のアンケート結果より)

グループ別の発表された内容やグループでの要旨は次のとおりです。



グループ1 - A: 7クラブ「既存団体・組織等の連携」

共通する課題・・・ 既存団体への説明会に置いて、質問に対する明確な回答ができない
既存団体の既得権問題
地域クラブ育成への理解が得られない

意見・アドバイス・・・地域に理解を得るには、地元連合会・自治会をターゲットにした説明会を粘り強く何回と無く理解を得るまで開催することが重要。また、既存団体への説明は、クラブ側から行うのは、立場上得策とは言えない、アドバイザー・体協からの説明が好ましい。



・平城ニュータウンクラブでは、室外・屋内委員会を組織し、施設使用を調整している。

グループ1 - B: 6クラブ「既存団体・組織等の連携」

共通する課題・・・ 市の体育館など飽和状態
学校の廃校に伴い施設を有効活用・・・無料から有料化に

意見・アドバイス・・・学校開放委員会への事前説明とパートナーシップが必要。総合型クラブが行政の役割を補完するクラブであることを理解いただき、共に活動する関係に。
・指定管理者として、学校を管理できないか。

グループ2 - A: 4クラブ「クラブの事業」

共通する課題・・・ 色々な種目をして、全てが中途半端に終わらないか不安
人数が集まらない

意見・アドバイス・・・遊びという開き直りも大切、色々な種目を楽しむことが総合型の本分。
・ニーズ調査が必要、比較的人気の高い事業は、ファミリーバドミントン、サッカー、ウォーキング。

グループ2 - B: 5クラブ「クラブの事業」

共通する課題・・・ 無料で行っていたスポーツが有料に・・・住民の意識改革が必要
魅力あるプログラムと会員確保、質の高い指導者
会費の設定、財源の確保

意見・アドバイス・・・青少年の健全育成を理念に掲げているので、子どもの対象事業は安価に設定。
・学校を活動拠点にする場合、PTAを巻き込む。
・スポーツ教室だけでなく、街づくりを視野に入れた事業。
・会費設定の際には、使用料・講師・クラブマネージャー経費等を試算して設定。
・リスクマネジメントとしてのマニュアルの整備。

グループ3 : 2クラブ「財源の確保」

共通する課題・・・ 会費での運営に頼りたいが、それだけの会員が得られない

- 協賛金・補助金・行政からの委託事業など依存体質がクラブに
- 意見・アドバイス…付帯事業としての自販機手数料・地域行事にクラブが出店などの工夫が必要
- ・既存団体ではできないサービスの提供を地域クラブが行う(製氷器・スポーツ備品など)。
- ・会員確保のために中高齢者を引き込む事業(グラウンドゴルフ、介護予防運動など)を行う。
- ・会員と会員外の特典を明確に。

グループ4：6クラブ「設立へ向けた道程表」

- 共通する課題…熱意ある者の集まりからスタートしたが、組織に広がりが見られない
- 運営委員会と準備委員会のスタッフが同じ
- 意見・アドバイス…クラブがどの対象をターゲットとするのか検討する。
- ・既存団体など基盤となる組織からのスタートは意外と発展しやすい。
- ・広報(啓発)・調査活動が設立までに重要なポイントを占める。
- ・クラブの理念に賛同する地域住民からのスタートが本来のクラブでは！



～ ティータイム ～

ご当地の特産品(お菓子)などを持ち寄り、育成指定クラブ間の交流を深め地方企画班員、府県体協アドバイザー、助言者(設立したクラブ)など穏やかな時間と雰囲気の中で話し合いが進められました。持ち寄った土産は、当然完食され、食べ物の話題に花咲いたグループもありました。



～ グループ別フリーディスカッション ～ (グループごとの記録より)

グループ1 - A

委託期間中の謝金・旅費を支払っているクラブは、委託終了後の運営も考慮して、委託終了後クラブでの収入でまかなえるかどうか判断が必要。基本的には、スタッフのボランティア活動で支えることが好ましい。

種目については、競技スポーツを主としたクラブ運営は、前途多難で広がりも予測されない。誰もが参画できる選択肢の多いプログラムの提供が必要では…。

グループ1 - B

体協と体指の連携がとれていない。リーダーバンク制度が活用されていない。行政、大学との連携が必要。クラブで指導者資格取得費用を出してみても。

グループ2 - A：補助金の活用および中間報告について

委託終了後のことを見据えて、補助金はできるだけ謝金に使わない方がよいのでは。中間報告書などの書類は作成するのは大変なので、できるだけ前々から準備を。

グループ2 - B：会員獲得に向けて

対象者(幼児・児童等)によって教室時間が異なる・大人は基本的に夜間。
種目は住民ニーズを把握して、人気事業をまず実施。

アスリート志向の場も提供する必要がある。

グループ3

地域クラブの必要性をもっと多くの住民に理解いただける仕掛けが必要で、その課程をおろそかにすると育成中・後の運営に支障をきたすケースが多い。

グループ4

次代のニーズとして、フィットネス系の事業は、参加者も多い。会費の設定については、各クラブ様々で、地域によっては行政サービスで無料提供しているところも未だにある。民でもなく官でもない公共性の高いクラブとして、安価で事業を提供することが好ましい。

～総括(まとめ)～ お招きした先進クラブからのメッセージ

総括(まとめ)は、本日の推進協議会にお招きし、各グループにオブザーバーとして入っていただいた先進クラブの皆さんから、クラブ創設や育成に向けた体験をふまえたメッセージやエールがおくられました。

…… メッセージ ……

福井勝治さん(平城ニュータウンスポ - ツ協会:地方企画班員)

「委託事業を受ける2年の間に、3年目以降のクラブ財源・会費設定等を十分に協議し、その戦略を練っておく必要がある。(役割分担など)」

杉岡亜土さん(長野総合スポーツクラブ「モックルクラブ」)

「スタッフの確保に設立後も困っている。よい指導者＝プログラムサービスとして提供できる。会費の設定もプログラム内容が大きく左右する。ボランティアスタッフ(指導者)としての参画に頼らなくては運営不可能。」

立野誠次さん(長岡第七小学校区総合型地域スポーツクラブ:地方企画班員)

「クラブが主催する事業、既存団体と共催する事業、学校やPTA、学校開放利用団体と共催する事業など、それぞれの事業を整理して取り組んでいただきたい。」

谷口正さん(たつみスポーツクラブ)

「今の育成指定クラブは恵まれていると思う。このようなネットワーク組織としての協議会の開催により情報を得ることができるのだから。皆さんは、設立のための準備委員会ではなく、地域のスポーツ振興を担える総合型クラブを目指して下さい。」

太甫正彦さん(さくらスポーツクラブ)

「学校開放を母体に地域クラブに発展。今後は、健康志向のニーズが高いことも相まって団塊の世代等中高齢者を対象にした事業展開を検討していく。」

睦谷一馬さん(阪南AC)

「まず、気のあった仲間を沢山集めること。それがチームとしての組織力となり魅力あるクラブづくりとなるのでは……。」

受益者負担の原則に立ったクラブ経営を！地方企画班 福井さん閉会の挨拶

閉会式では、近畿地方企画班の福井勝治さんが、「本日の協議会で色々なヒントを得たと思う。ぜひ、地域に持ち帰り、役立ててほしい。また、次回12月は奈良県で開催を予定しているので、是非お越しいただきたい。」と挨拶し、第1回協議会を終了しました。

(報告:近畿ブロック地方企画班員 中松 秀夫)